

ボランティアスキルアップ事業

WA!んぱくキッズの森もりキャンプ(登録ボランティア自主企画キャンプ)

1 趣旨

立山青少年自然の家の登録ボランティアが、自然の中で元気に遊び、自然体験活動の大好きな子供たちを増やすというねらいの下、小学校低学年を対象としたキャンプを企画・実施している。さらに、ボランティアが中心となって創意工夫した活動に取り組むことで、ボランティアのスキルアップを目指している。

2 期日

- ①平成30年 5月26日(土)～27日(日) 1泊2日 WA!んぱくキッズの森もりキャンプ春
- ②平成30年10月27日(土)～28日(日) 1泊2日 WA!んぱくキッズの森もりキャンプ秋
- ③平成31年 2月23日(土)～24日(日) 1泊2日 WA!んぱくキッズの森もりキャンプ冬

3 対象・定員

- ①小学校2年生 24名
- ②小学校1年生 24名
- ③小学校1、2年生 24名



4 参加人数/応募人数

- ①24名/69名
- ②23名/37名
- ③30名/57名

5 スタッフ

- ① 法人ボランティア(富山大学、富山国際大学) 14名
国立立山青少年自然の家職員
- ② 法人ボランティア(富山大学、富山国際大学) 13名
国立立山青少年自然の家職員
- ③ 法人ボランティア(富山大学、富山国際大学) 17名
国立立山青少年自然の家職員



6 共催、後援

立少ボランティアの会(共催)
富山・石川・新潟各県教育委員会(後援)、北日本新聞社(後援)

7 日程

- ①「WA!んぱくキッズの森もりキャンプ(春)～のびのび遊ぼう!うきうきアドベンチャー～」
平成30年5月26日(土)～27日(日)

	午前	午後	夜
5月26日(土) 1日目	○はじめのつどい ○仲間づくりタイム ○昼食(弁当)	○自然の中で遊ぼう ○野外炊事(カレーライス)	○夕方ハイク ○就寝(本館泊)
5月27日(日) 2日目	○朝食(食堂) ○来拝山登山 ○昼食(食堂)	○ふりかえり ○おわりのつどい	

- ②「WA!んぱくキッズの森もりキャンプ 秋 ～できっこないをやってみよう!～」
平成30年10月27日(土)～28日(日) 1泊2日

	午前	午後	夜
10月27日(土) 1日目	○はじめのつどい ○仲間づくりタイム ○昼食(弁当)	○マイスプーンづくり ○焼き芋 ○野外炊事(ミストロネ)	○ナイトハイク ○就寝(本館泊)
10月28日(日) 2日目	○野外炊事(ピザドッグ) ○大日の森探検(秘密基地づくり) ○弁当(基地の中で)	○ふりかえり ○おわりのつどい	

③「WA!んぱくキッズの森もりキャンプ 冬 ～ワクワク!ドキドキ!キラキラ笑顔～」
平成31年 2月23日(土)～24日(日) 1泊2日

	午前	午後	夜
2月23日(土) 1日目	○はじめのつどい ○仲間づくりタイム ○昼食(食堂)	○雪たわむれタイム ○雪の王国づくり ○リラックスタイム	○キャンプファイヤー ○就寝(本館泊)
2月24日(日) 2日目	○トントンの森大冒険 ○雪合戦 ○昼食(食堂)	○ふりかえり ○おわりのつどい	

8 成果

- ボランティアが自主的に企画・運営できるよう、2か月前から打合せ、下見などを実施した。特に中心となって動くボランティアには活動エリアの確認や道具の使い方など、事細かに確認をすることで、本番では円滑に活動を実施することができた。
- 子供たちは、初めて扱うのこぎりやなた、包丁を使ってスプーンを作ったり調理したりできたことに「やった!みんな見て!」「できた!もう一度やってみたい」と、とても満足していた。また、秘密基地づくりでは、自分たちの基地を班の仲間と工夫しながら作ることでより仲間意識が高まり、「みんなでもっと作りたい」「こわしたくない」などの声も聞かれた。
- 事前実地踏査では、PLが2か月前にフィールドの確認、野外炊事の体験をし、1か月前にGLを含めた全員で確認、体験を行うことで全員が共通理解を図ることができた。
- 事前に子供たちの家庭からいただいた情報をボランティアと見合うことで、どのように対応することが効果的なのか準備することができた。
- 今回よりボランティアの振り返りカードを用いた。自分自身の評価項目がキャンプにおける子供たちとの接し方、自分の取り組み方への指標となるように声をかけてから本番に入った。それにより、学生スタッフとしての意識のもち方、取り組み方が高まり、ボランティアスタッフの積極的に活動する様子が多くみられた。
- ボランティアスタッフとの打ち合わせをメール・電話だけでなく、実地踏査時や大学に所員が赴いて行うことで綿密に話し合うことができた。
- 前回の反省点を加味し、アクティビティのルールに修正を加えて行うことで、トラブルなくみんなが楽しむことができた。

9 今後の課題

- ボランティアからの活動細案の提出が遅れ、事業の詳細が直前になるまでわからないことがあった。おおよその方向性を、早い段階で決められるように、職員とボランティアとの打ち合わせを綿密に行っていきたい。
- 振り返りを次のキャンプへ生かすための方法が、ボランティア同士の振り返りに委ねられており、それを所員が見るだけになっている。次につなげる、生かすための方法を検討したい。
- キャンプ企画始動の段階から組織的に立案、計画を行い、分担する場面、共同する場面を明確にして進めていけるようにしたい。また、ふりかえりで上がった修正点等は記録に残し、次回へつなげる蓄積をしていきたい。



(春：来拝山登山)



(秋：秘密基地作り)



(冬：雪の王国づくり)